

# 平成30年度第1回千葉市障害者施策推進協議会議事録

1 日時 平成30年11月26日（月曜日）午後7時0分～午後7時40分

2 場所 千葉市役所8階 正庁

3 出席者

（委員） 齋藤会長、田辺副会長、伊藤委員、大石委員、金子委員、木村（辰）委員、  
坂井委員、佐久間委員、島田委員、鈴木（將）委員、鈴木（瑞）委員、  
高木委員、高野委員、高山委員、角田委員、村田委員

（事務局） 小早川保健福祉局長、鳩川高齢障害部長、柏原障害者自立支援課長、  
松田障害福祉サービス課長、高石精神保健福祉課課長補佐 他8名

計29名

4 議題

- （1）会長の選出について
- （2）副会長の選出について
- （3）障害者差別解消支援部会の委員選任について
- （4）第3次千葉市障害者計画及び第4期千葉市障害福祉計画の進捗状況について
- （5）その他

5 議事の概要

- （1）会長の選出について  
委員の互選により、齋藤委員を会長とすることに決定した。
- （2）副会長の選出について  
委員の互選により、田辺委員を副会長とすることに決定した。
- （3）障害者差別解消支援部会の委員選任について  
事務局より委員名簿（案）を提示し、説明の後、会長からの指名により委員が決定した。
- （4）第3次千葉市障害者計画及び第4期千葉市障害福祉計画の進捗状況について  
事務局からの説明の後、質疑応答が行われた。
- （5）その他

6 会議経過 別紙のとおり

## 午後 7 時 0 分開会

(山内障害者自立支援課課長補佐) それでは定刻となりましたので、ただいまより、平成 30 年度第 1 回千葉県障害者施策推進協議会を開催させていただきます。

私は、本日、司会進行を務めさせていただきます、高齢障害部障害者自立支援課課長補佐の山内と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、会議に入る前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

はじめに、「次第」、続いて、「座席表」、「委員名簿」、「千葉県障害者施策推進協議会条例」、資料 1 といたしまして「障害者差別解消支援部会委員名簿(案)」、資料 2 といたしまして「第 3 次千葉県障害者計画の進捗状況」、資料 3 といたしまして「第 4 期千葉県障害福祉計画の進捗状況」をお配りしております。以上でございます。お手元にそろっておりますでしょうか。

それでは、会議に先立ちまして、保健福祉局長の小早川より、ご挨拶申し上げます。

(小早川保健福祉局長) 皆さん、こんばんは。保健福祉局長の小早川でございます。

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、日頃より本市の障害福祉施策のみならず、市政各般にわたりまして、ご支援、ご協力をいただいておりますこと、心より感謝を申し上げます。

昨年度は、障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画の策定にあたり、委員の皆様には貴重なご意見、ご提言をいただき、多大なるお力添えをいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

また、新たに委員になられました皆様方には、委員のご就任を依頼させていただきましたところ、快くお引き受けいただきましたこと、感謝を申し上げます。

さて、本日は、平成 27 年度から 29 年度までを計画期間とした障害者計画・障害福祉計画の進捗状況をご報告させていただく予定となっております。

専門的なお立場から、活発なご討議と慎重なご審議をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますけれども、本日の開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願い申し上げます。

(山内障害者自立支援課課長補佐) ここで、このたび新たに千葉県障害者施策推進協議会委員として委嘱させていただいた皆様をご紹介させていただきます。

はじめに、千葉県医師会の会長に新たに就任されました、斎藤博明委員でございます。

次に、千葉障害者職業センターの所長に新たに着任されました、鈴木瑞哉委員でございます。

次に、千葉県社会福祉協議会の会長に新たに就任されました、田辺裕雄委員でございます。

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。

初めに、先ほどご挨拶いたしました、保健福祉局長の小早川でございます。

次に、高齢障害部長の鳩川でございます。

次に、高齢障害部障害者自立支援課長の柏原でございます。

次に、高齢障害部障害福祉サービス課長の松田でございます。

次に、高齢障害部精神保健福祉課課長補佐の高石でございます。

その他の職員につきましては、お手元の座席表にて、ご確認いただき、紹介は省略させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

次に、本日の協議会でございますが、千葉市自閉症協会会長菊池委員、精神保健福祉審議会委員木村章委員、千葉商工会議所常任理事河野委員、淑徳大学教授山下委員が欠席となっておりますが、委員20名中16名のご出席をいただいておりますので、千葉市障害者施策推進協議会条例第5条第2項に基づき、会議が成立しておりますことを、ご報告申しあげます。

また、本日の会議は、千葉市情報公開条例第25条に基づき、公開となっております。

それでは、これより議題に入らせていただきたいと思います。

議題の(1)、会長の選出についてです。

議事の進行につきましては、条例において、会長が行うこととなっておりますが、会長が選出されるまでの間、小早川保健福祉局長を仮議長として、進行したいと存じますが、よろしいでしょうか。

《委員より「異議なし」の声あり》

ご異議がないようですので、小早川保健福祉局長を仮議長として議事を進行させていただきます。

(小早川保健福祉局長) それでは、会長が選出されるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。

会長の選出につきましては、千葉市障害者施策推進協議会条例第4条第2項の規定により、委員の互選で定めることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

はい、高山委員。

(高山委員) この協議会の会長は、これまで市の医師会会長が就任されていますので、医師会会長の齋藤委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(小早川保健福祉局長) ただ今、高山委員より、会長に齋藤委員をとのご提案がございましたが、いかがでしょうか。

《委員より「異議なし」の声あり》

(小早川保健福祉局長) それでは、ご異議がないようですので、齋藤委員に、会長をお願いいたします。

齋藤会長には席をお移りいただきまして、就任のご挨拶をいただき、その後、議事の進行をお願いしたいと存じます。

委員の皆様には、ご協力ありがとうございました。

(齋藤会長) ただいま、皆様のご推挙により会長を務めさせていただきます齋藤でございます。委員の皆様のご協力をいただきながら会議を円滑に運営したいと思っております。

どうぞよろしく申し上げます。

それでは、着席して次第に沿って進めさせていただきます。

議題の（２）、副会長の選出についてですが、条例の規定により、会長と同様、委員の互選となっておりますが、いかがいたしましょうか。

高野委員。

（高野委員）成年後見制度や色々なボランティア活動を行っておられ、その中で障害者等の実態などにもお詳しい田辺委員を副会長に推薦したいと思いますがいかがでしょうか。

（斎藤会長）ただ今、高野委員より、副会長に田辺委員を、とのご提案がございましたが、いかがでしょうか。

《委員より「異議なし」の声あり》

（斎藤会長）それでは、ご異議がないようですので、田辺委員に、副会長をお願いいたしたいと思えます。

では、田辺副会長には席をお移りいただきまして、就任のご挨拶をいただきたいと思えます。

（田辺副会長）ただいま皆様にご推挙いただきました田辺でございます。しっかりと会長を補佐いたしまして円滑な会議運営に努めて参りたいと思えます。ありがとうございます。

それでは、議題の（３）、「障害者差別解消支援部会の委員選任について」に移ります。

部会の委員については、障害者施策推進協議会設置条例第８条第２項の規定により、会長が指名することとなっております。

事務局から委員名簿の案の説明をお願いします。

（柏原障害者自立支援課課長）障害者自立支援課長の柏原でございます。

資料１「障害者差別解消支援部会・委員名簿（案）」をご覧ください。

この部会では、障害者差別に係る個別事例の検討をしており、本協議会の委員を絞り込み、より具体的な協議をしていく必要があることを踏まえまして、障害者団体、家族会のほか、医療、事業者、法曹、教育、地域活動の各分野の委員をもって構成しております。

この度は、入江委員及び土屋委員が退任され、斎藤委員と田辺委員が就任されましたので、新たに両委員を加える案となっております。

説明は以上でございます。

（斎藤会長）特段、ご異論がなければ、この案をもって、会長による委員指名とさせていただきますと存じますが、いかがでしょうか。

《委員より「異議なし」の声あり》

では、この案で決定いたします。

なお、本日のこの協議会終了後に、引き続きではありますが、本年度の第１回の部会を開催しますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、議題の（４）、「第３次千葉市障害者計画及び第４期千葉市障害福祉計画の進捗状況について」に移ります。

事務局より説明をお願いします。

(柏原障害者自立支援課課長) 障害者自立支援課長の柏原でございます。

議題の(4)、「第3次千葉県障害者計画及び第4期千葉県障害福祉計画の進捗状況について」のご報告をさせていただきます。座って説明させていただきます。

なお、本日の会議では、「障害者計画」は「者計画」と、「障害福祉計画」は「福祉計画」と略して、説明させていただきます。

それでは、お手元の資料2、「第3次千葉県障害者計画の進捗状況(総括表)」をご覧ください。

表題の下に記載しておりますように、「者計画」の計画年度は、平成27年度から平成29年度となっております。

この「者計画」の掲載事業は、各年度の数値目標が定められていない事業が多いことから、当初予算での目標量に対する実績数値により、進捗状況を報告することとし、枠の中に ございますように、評価基準を設定しております。

当初予算の目標量を大幅に超える事業として、150%を超える事業には「◎」を、概ね当初予算の目標量どおりである、70%以上から150%以下の事業は「○」を、70%未満の事業は「△」と、3段階で評価しました。

次に、総括表の構成ですが、左側に、計画の体系として、7つの基本目標ごとに、事業番号と事業数を記載しています。

そして、「者計画」の計画年度である、平成27年度、28年度、29年度の3年間分の評価を記載しています。

各年度の評価ですが、7つの基本目標ごとに、評価基準の3段階それぞれの事業数と割合を記載してございます。

なお、各年度の評価の欄の右端、「対象外」についてですが、当該年度に実施予定が無いことから、評価の対象外となった事業は「対象外」と整理しております。

一番下の、合計の欄をご覧ください。

「者計画」に掲載した事業数は189事業であり、このうち、◎と○の事業の割合が、平成27年度では4.3%と86.5%を足して90.8%、28年度では0.5%と88.5%を足して89.0%、29年度が1.6%と87.9%を足して89.5%となっており、この3年間、おおむね計画どおりに目標が達成できたと考えております。

一方で、この3年間、達成評価が△となってしまった事業もございます。このような事業のうち、主なものについて説明させていただきます。

資料をめくっていただき、1ページ、進捗状況の掲載事業一覧をご覧ください。

まず、この一覧表の構成ですが、表の一番上、左から「基本目標」「項目」「事業番号」「事業名」「事業内容」、各年度の「実施目標」「実績」「達成評価」を記載しております。

また、太い線で囲んでいる部分は平成29年度でございます。

なお、最後の欄は、事業の所管課となります。

このページの、上から5番目、事業番号5、「発達障害者支援センター運営」ですが、実利用者数の実績数については、この3年間、着実に伸びているところですが、実施目標

に達していないため、△の評価となりました。

主な要因としては、この3年間、同センターの職員数が変わらなかったことが挙げられます。現在の職員数での限界があり、相談待ちの期間も長引いてしまったことから、平成30年度に職員1名を増員したところです。

次に、4ページの下から2番目、事業番号27、「障害者グループホームの整備」ですが、施設整備の国庫補助枠をグループホームに限定して整備を促進しておりますが、各種の助成に対する応募が少なく、目標に達しませんでした。

次に、7ページをお願いしたいと思います。事業番号57、「発達障害等に関する巡回相談員整備事業」ですが、本事業の対象となる市内の幼稚園及び保育所等の数が約250施設ある中で、訪問施設数が少ないことから、△と評価いたしました。

なお、この事業は、平成27年度に開始した事業であり、これまで非常勤職員2名で対応してきたところです。開始当時に比べて、この3年間で、訪問施設が増えていることから、平成30年度から、常勤職員2名分の予算を確保し、人員体制の強化を図りました。今後、対象となる各施設に対して、本事業の理解を促進して参りたいと考えております。

次に、11ページ、一番下でございます。事業番号99、「スケート教室の開催」ですが、スケート教室事業全体として利用者が減少している影響で実績が少なくなっております。今後、より一層の利用の周知に努めて参りたいと考えております。

ページをめくっていただきまして、13ページをご覧ください。中ほどでございます事業番号120、「聴覚障害者用火災警報器設置費の支給」ですが、既に対応している障害者世帯も多いことから、実績が0件となっている状況もございます。ですが、減災の必要性を喚起する視点から、今後も本事業の利用者を掘り起して参ります。

その下、3つ目になりますが、事業番号123、「自主防災組織の育成」ですが、自主防災組織未結成の町内自治会等に対し、結成促進のため、結成依頼文書の送付、説明会の開催、市政出前講座での説明や結成呼びかけ等を実施いたしましたが、目標の見込み数に届きませんでした。

次に、事業番号124、「災害時における避難支援体制の強化」ですが、避難行動要支援者名簿の提供団体数については、この3年間、着実に伸びているところですが、実施目標に達していなかったため、△の評価となりました。

次に、事業番号126、「オストメイト用装具預かり保管の実施」ですが、オストメイト用装具の預かり保管にあたっては、一定期間が経過した場合、入れ替えが必要となります。また、災害発生後に受け取りがしやすいことなどを考慮し、平成29年度まで、保管場所とともに実施方法等を検討したところです。

なお、平成30年度から、各保健福祉センターにて開始したところです。

以上が、「障害者計画の進捗状況」になっております。

次に、資料3をご覧ください。「第4期千葉市障害福祉計画の進捗状況」です。

まず、この一覧表の構成ですが、左から「サービス名」「サービス内容」「各年度におけるサービス量の見込量と実績」「考察」を記載しております。

先ほどの「者計画」の事業と重複している事業が多いため、考察が△となっている主な

事業について説明させていただきます。

なお、各年度の実績は、上段が実績、下段が見込みとなっており、また、評価については、右の方の列に、最終年度である平成29年度の進捗率を基に、◎、○、△を記載しております。

まず、1ページの上から4番目、「重度障害者等包括支援」ですが、訪問系、日中活動系、短期入所等、サービス内容が多岐に渡ること、及び、包括報酬となっていることにより、個々のサービスに比べ、割安な報酬設定となっており、事業者参入が進まない一方で、個々のサービスで対応しているため、利用者の需要もない状況です。

なお、全国的にも事業所は少なく、千葉県内でも指定事業所が無い状況です。

1枚めくっていただきたいと思います。

2ページ一番上、「自立訓練（生活訓練）」ですが、利用期間が決まっており、限定されたニーズのサービスのため、見込みまでの利用とならなかったと考えております。

次の「就労移行支援」ですが、実績については、3年間で着実に伸びていますが、他の就労系のサービスである、就労継続支援A型、B型の利用が伸びたことが一因で、見込量まで達していなかったと考えております。

次に、3ページ、中ほどの「医療型障害児入所支援」をご覧ください。この事業は、平成27年度からの新規事業であり、実績については、3年間で着実に伸びていますが、計画策定時に見込んだ利用者数に達しなかったものです。

次に、下から2番目、「地域定着支援」ですが、地域移行に際し、日中活動系の事業所による支援等が得られるケースがあり、本事業の利用が少なくなったと考えております。

では、1枚めくっていただいて、5ページ、上から2番目の「要約筆記者養成事業」ですが、定員が10名のところ、平成29年度は受講者が2名と、かなり少なくなったため、△といたしました。

平成29年度は、新たな会場に変更しましたが、従来の場所に比べて、交通の利便性が悪いことなどが要因と考えております。現在、委託先の障害者団体と、受講者の増加を図るための方策について検討している状況でございます。

最後のページの、7ページをご覧ください。「1 施設入所者の地域生活への移行」ですが、目標値として、平成27年度から29年度の3年間の累計を68人以上としておりますが、平成29年度の実績は41人、累計数は93人となり、目標を達成したところでございます。

次に、「2 地域生活支援拠点等の整備」ですが、目標値として、平成29年度までに1か所以上整備することとしておりますが、平成29年度に1か所の整備を行い、目標を達成いたしました。

次に、「3 福祉施設から一般就労への移行」ですが、目標値を112人以上としておりますが、平成29年度は131人となり、目標を上回る成果を上げることができました。

このように、「者計画」「福祉計画」ともに、この3年間、ほぼ計画どおりに目標が達成できたものと評価しているところであり、引き続き、各障害者施策の充実を図って参りたい

いと考えております。

説明は、以上でございます。

(齋藤会長) ありがとうございます。

ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

なお、発言される方は、みなさんに発言者がどなたなのかわかるように、最初にお名前を仰ってから、発言をお願いいたします。

はい、大石委員。

(大石委員) 大石です。

視覚障害者の立場から3つほど。要望が2つと、質問が1つです。

要望は、まず、情報提供の充実という項目について、市政だよりとか、障害者福祉のあんないや、ごみの出し方ガイドブックを点字で配布する。あるいは、障害者福祉のあんない等については、SPコードをつけるということについてです。

この文面だけを見ますと、視覚障害者がすべてこれで情報を共有できるように思われますけれども、残念なことにSPコードが付いていたり、音声でページを再生する機械というのは市販されていたりするわけではないし、高額で、重度の障害者は日常生活用具として90%ないしは100%の費用が支給されますが、3級、4級といった弱視者に対しては、千葉市では支給がないです。弱視者に拡大文字の市政だよりがあるわけでもないし、情報が全部きちんと配慮されているとは思えないです。

他市では、全視覚障害者に音声読み取り装置を支給しているという市もありますので、この辺をもう少し今後考慮していただきたいと思うことが1点目。

2点目は、同行援護についてです。これについても、数字的にはおおよそニーズに合っているように見えますけれども、現在は同行援護の事業所がかなり撤退しておりまして、新規の契約を結べない、あるいは、賃金の関係からか、長時間の同行はヘルパーがいないということで、断られてしまったという相談があります。

私に相談があったのが、母親が授業参観に行っても2時間しか同行できないと言われて、父兄参観に出ないで、授業だけ観て帰ってきたという相談が何度かありました。この辺を今後考慮していただきたいなと思っています。

それからもう1つの質問は、先ほどおっしゃった災害時における避難支援体制の強化についてです。避難行動要支援者名簿の作成にあたって、私どもでは、市からの問い合わせに対し、情報を提供した人は、ほとんどの人が、自分は市に支援が必要だと届けているからと言ってすごく安心しているのですけれども、これを受け入れてくれる自治会が100%ではないってということが、どのようにして、その本人たちに伝わるのかということが質問です。

以上です。

(齋藤会長) では、事務局からお願いします。

(柏原障害者自立支援課課長) はい、障害者自立支援課長の柏原でございます。

2点の要望につきましては、視覚障害者からの貴重なご意見ということで、要望として承り、今後、各所管課等に働きかけて、予算の確保というのは今厳しい状態ですが、より



皆さんのニーズに合った情報提供ができるように努めて参ります。さらに、同行援護についてもできるだけ事業者の育成に努めて参りたいと思います。

次に、質問についてお答えします。避難行動要支援者名簿について、すでに名簿情報を自治会で受け取りをされている自治会があります。それから、実は、自治会が結成されていなくても、市の情報としては皆さんから提供頂いた名簿がございます。緊急時の場合、その地域においてこういった要配慮者がいるのか、そして各避難所を通してその方々が避難所に避難しているのか、在宅避難をしているのか、もし在宅避難であれば、どのように伝達をしなければいけないのか、それも併せて市の方では今研究しております。まず、現在お願いしたいのは、すでに結成している自治会が防災の訓練をした際にはぜひ参加いただいて、みなさんが地域に住んでいる方、近所の周りの方とも声を掛け合って避難行動の練習をしていただければと思っております。出来る限りやれるところからやって参りたいと考えております。

(齋藤会長) 大石委員。

(大石委員) 訓練に参加するにも、ここの自治会では、いただいた人の要支援名簿で支援体制を考えていますよという自治会がわかれば行きようもありますが、自分の自治会は、まだ支援体制ができていないのだなということが視覚障害者本人にわかるにはどうしたらいいでしょうか。

(柏原障害者自立支援課課長) 障害者自立支援課長の柏原でございます。

今各防災組織をお願いしているということで聞いているのは、地域の皆さんが一緒になって避難所をどう運営していくのかを検討する運営委員会があるので、その中で、どのように障害者の方や高齢期のお一人暮らしの方に声をかけていくのかということシミュレーションして、避難訓練などを行っていると聞いております。その中で要支援者名簿を活用されている防災組織もあれば、まだその段階にも行っていないところがあると思います。名簿があるからすぐには、まだ進んでいないとも聞いておりますので、徐々に自治会、防災組織の中からそういった話があればぜひ参加いただきたいということで考えています。以上でございます。

(齋藤会長) 大石委員、よろしいでしょうか。

(大石委員) 分かりました。ありがとうございます。

(齋藤会長) それでは他にどなたかございますか。

島田委員。

(島田委員) 手をつなぐ育成会の島田でございます。お世話になります。

先ほどの第3次計画の進捗状況の中で1ページ目の発達障害者支援センターの運営について、3年間で発達障害者の相談支援体制について、進捗があまりはかばかしくなかったというご報告がありまして、その中で、平成30年度からは人員体制の強化が図られたというご報告もありました。発達障害者の支援に関わる施策というのは、こういった人員体制の強化がとても大事だと思います。また、それと同時にまた様々な関係者の連携も、とても重要なのではないかと考えています。

年々増加している発達障害者について、今後どのように関係機関との連携をすすめてい

くかということについて伺いたいと思います。

(齋藤会長) では、事務局からお願いします。

(柏原障害者自立支援課課長) 障害者自立支援課長の柏原でございます。

発達障害に関して、今委員ご指摘のとおり関係機関との連携は大変重要と考えています。また、障害者福祉のみならず、医療や教育との連携が重要で、発達障害の早期発見から就労までの一貫した支援と共に、各ライフステージごとに関係機関が連携して支援することが二次障害を防ぐことにつながると考えております。いわゆる縦と横の連携による発達障害の支援が求められていることから、今後、関係機関による協議と共通認識の形成の場の設置について検討して参りたいと考えております。そして福祉・医療・教育が情報を共有しながら、早期発見から就労までつながっていくという支援ができるように体制を強化して参りたいと考えております。

以上でございます。

(齋藤会長) 島田委員よろしいでしょうか。

(島田委員) 島田でございます。支援の多様性を求められる、特に発達障害に関しては、今後支援体制の整備を早急をお願いしたいということでもよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(齋藤会長) 他にどなたかございますか。

はい、高山委員。

(高山委員) 高山です。障害者計画の方は概ねいいと思います。先ほど大石委員の方からご質問があったのですが、災害時の対策というのが、市は遅れているのではないかと気がしています。というのは、九都県市合同防災訓練、植草学園での拠点福祉避難所開設訓練、それから災害時の帰宅困難者対策実動訓練と、いろんな訓練に参加をさせてもらったのですが、自治会の取組みがかなり遅れているように感じました。私たち身体障害者連合会では、自治会などの色々な集まりの時に「災害の時に自分は助けてほしいんだよ」という意思表示をしなさいよと言っているのですが、それが自治会に届いているのかどうか全くわからないというのが現状なので、そのことについてわかれば、教えていただきたいと思います。

(齋藤会長) 事務局よろしく申し上げます。

(柏原障害者自立支援課課長) 障害者自立支援課長の柏原でございます。

2名の委員からご指摘がありましたとおり、基本的には各自治会での防災対策の組織をお願いをしている中で、なかなか要支援者名簿に皆さんが登録をした後、どういった扱いになっているのかというのが見えないという指摘が、2名の委員からあったことを改めて防災部局の方に伝えまして、実際に登録した障害のある方にどのように伝えるべきか、ということ一度検討するようにお願いしておきたいと思っております。

要支援名簿自体は、障害者手帳が重度の方は、自動登録されるわけですけれども、中程度、軽度だけれども心配という方は是非名簿に登録いただけるよう引き続き会員の皆様にはお伝えいただきたいと思っております。

(齋藤会長) 高山委員、よろしいでしょうか。

それでは、その他どなたかございますか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上で議題の（４）を終わります。

それでは、次に、議題の（５）、「その他」ですが、事務局から何かありますか。

（柏原障害者自立支援課課長）ありません。

（斎藤会長）以上で、本日、予定されていた議題は全て終了いたしました。

なお、本日の会議の議事録の作成につきましては、事務局及び会長にご一任願います。

これをもちまして、平成30年度第1回千葉市障害者施策推進協議会を終了いたします。  
お疲れ様でした。

（山内障害者自立支援課長補佐）委員の皆様には長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

なお、障害者差別解消支援部会は、19時50分より、この場で開催させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**午後7時40分閉会**